

平成 24 年度科学技術戦略推進費による 実施プロジェクトの評価の実施について (案)

平成 24 年 4 月 18 日
科学技術・学術審議会
研究計画・評価分科会
研究開発評価部会

1. 評価対象プロジェクト・評価項目

平成 24 年度は、以下のプログラムで実施されたプロジェクトのうち、本年度に評価を実施することとされている 51 プロジェクトについて、プログラムごとに定める評価項目に従って中間又は事後評価を実施する。(評価対象プロジェクト一覧、プログラムごとの評価項目及び評価の視点はそれぞれ別添 1、別添 2 のとおり。)

(本年度の評価プロジェクトが含まれるプログラム)

- ・ 気候変動に対応した新たな社会の創出に向けた社会システム改革のプログラム
- ・ 健康研究成果の実用化加速のための研究・開発システム関連の隘路解消を支援するプログラム
- ・ 地域再生人材創出拠点の形成
- ・ 科学技術外交の展開に資する国際政策対話の促進
- ・ 戦略的環境リーダー育成拠点形成
- ・ 国際共同研究の推進(先進技術を基盤とした地域共通課題解決型国際共同研究)
- ・ 重要政策課題への機動的対応の推進

2. 評価の実施体制

- (1) 平成 24 年度の中間及び事後評価の実施に当たっては、研究開発評価部会(以下「評価部会」という。)の定める「評価の実施について」に基づき、文部科学省より事務委託を受けている科学技術振興機構が、外部有識者からなる評価作業部会(以下「作業部会」という。)を設置・運営し、評価を実施する。
- (2) 作業部会の構成については、評価対象プロジェクトの取組内容や専門性、研究分野等を勘案し、下記のとおり、7 の評価作業部会を設置することとし、作業部会の構成員については別添 3 の基準により評価部会長が指名する。また、作業部会には、科学技術戦略推進費(以下「推進費」という。)に係るプログラムオフィサー(以下「PO」という。)が「主査補佐」として参画し、作業部会主査の議事運営を補佐するとともに、これまでのプロジェクト管理等で得られた情報を含め、作業部会における必要な情報を提供する。

平成 24 年度に設置する作業部会と評価対象プロジェクト

評価作業部会	評価対象プロジェクト
(1) 気候変動対応社会創出評価作業部会（中間 4）	・気候変動に対応した新たな社会の創出に向けた社会システムの改革プログラム（中間 4）
(2) 健康研究成果実用化加速評価作業部会（中間 6）	・健康研究の実用化加速のための研究・開発システム関連の隘路解消を支援するプログラム（中間 6）
(3) 地域再生人材創出拠点形成評価作業部会 18 プロジェクト（事後 12、中間 6）	・地域再生人材創出拠点の形成（事後 12、中間 6）
(4) 国際政策対話評価作業部会（事後 4）	・科学技術外交の展開に資する国際政策対話の促進（事後 4）
(5) 戦略的環境リーダー育成拠点形成評価作業部会 5 プロジェクト（中間 5）	・戦略的環境リーダー育成拠点形成（中間 5）
(6) 国際共同研究推進評価作業部会 11 プロジェクト（事後 11）	・国際共同研究の推進（先進技術を基盤とした地域共通課題解決型国際共同研究）（事後 11）
(7) 重要政策課題評価作業部会 3 プロジェクト（事後 3）	・重要政策課題への機動的対応の推進（事後 3）

3. 評価の実施方法

中間及び事後評価の実施方法は、原則として以下の手順に従うものとする。

- (1) 被評価者は、実施プロジェクトによって得られた成果をまとめた成果報告書を作成し、電子媒体にて事務局に提出する。この資料は評価に用いる資料として、事務局が評価作業部会委員等に送付する。
- (2) 事務局及びPOは、提出された成果報告書の確認を行い、必要があると判断した場合は、被評価者に対して成果報告書の修正を求めることができる。
- (3) POは、作業部会における評価の実施を支援する観点から、評価対象プロジェクトの成果報告書を分析し、必要があると判断した場合は、資料の追加・補完を求めることができる。
- (4) 主査補佐は、作業部会前に、当該作業部会委員に対し、評価方法やプログラム趣旨の事前説明に加え、成果報告書の不明点等の確認方法、メールレビューの位置づけ等について十分な説明を実施する。
- (5) 作業部会委員は、書面査読を行い、不明点等を事務局で回収する。回収した内容を作業部会主査・主査補佐で精査し、「事前確認事項扱い」及び「ヒアリング留意点扱い」に分類する。

例：実施内容のうち調整費及び推進費で行われた範囲が不明確なプロジェクトについては、当該内容を明らかにする資料（申請時の技術レベルまたは推進費によって取り組んだ内容等）の提出を求める 等

- (6) 「事前確認事項扱い」となったものは、作業部会前までに被評価者に回答を求め、その回答を委員に送付する。また、「ヒアリング留意点扱い」となったものは、作業部会前に事務局から被評価者に伝達し、回答をプレゼンテーションに盛り込む

ことを依頼する。

- (7) 成果報告書の不明点等の内容の回収と合わせて、メールレビューの必要性の有無を情報収集し、作業部会主査・主査補佐で精査し、その結果に基づきメールレビューの要否を決定する。

メールレビューを依頼する知見者については、主査補佐が候補を取りまとめ、作業部会主査が決定する。

なお、メールレビュー委員の選定及びメールレビューの実施に当たっては、以下の事項に留意することとする。

- イ 評価対象プロジェクトの参画者でないこと。
- ロ 4.(2)の利害関係者に該当する者でないこと。
- ハ POでないこと。
- ニ 当該作業部会の委員以外の者であること。

- (8) (7)によりメールレビューを行うこととなった場合には、作業部会前までにメールレビューを実施し、その結果を作業部会で主査補佐から説明を行う。
- (9) 作業部会の進行・取りまとめは作業部会主査が行い、当該業務を主査補佐が補佐する。また、主査補佐はプロジェクト管理等を行う中で得られた情報を作業部会に提供する等、作業部会における適切な審査に必要な情報を提供する。
- (10) 作業部会においては、以下の内容を主とする。
- ① 評価の実施方法について確認を行う。
 - ② 成果報告書、「事前確認事項扱い」の事項の回答等を議論し、ヒアリングにより明らかにすべき点等を整理する。
 - ③ プロジェクトごとに被評価者からヒアリングを行い、評価結果を決定する。
- (11) 作業部会は、評価結果報告書を取りまとめ、それを作業部会主査から評価部会に報告する。
- (12) 評価部会は、作業部会からの報告を踏まえ、評価結果を決定する。
- (13) なお、主査、主査補佐の判断により、(4)及び(5)を第一回作業部会として、実施することも可能とする。その場合において、(10)は第二回作業部会として開催するものとする。

4. 利害関係者の範囲

評価対象プロジェクトの利害関係者の範囲は、プログラムに応じて以下のとおりとする。

- (1) 評価対象プロジェクトに参画している者は、当該プロジェクトを評価する作業部

会委員となることができない。

(2) 評価部会委員、作業部会委員が以下のいずれかに該当する場合は、当該プロジェクトの評価を行うことはできない。

- ① 実施機関と同一の機関（*）等に所属する者
- ② 被評価者(実施プロジェクトの代表者)と親族関係にある者
- ③ 実施プロジェクトの研究運営委員会、評価委員会等の委員
- ④ 「国際共同研究の推進」における参画機関と同一の機関に属する者

なお、それ以外の場合であっても、利害関係を有すると自ら判断する場合には、当該プロジェクトの評価を行わない。

(*) 具体的な範囲は以下のとおり。

- 「国際共同研究の推進（先進技術を基盤とした地域共通課題解決型国際共同研究）」の場合
 - ・ 大学・大学共同利用機関にあっては、同一の学部、研究科、研究所
 - ・ 独立行政法人、特殊法人及び認可法人においては、同一の研究所、研究部門
 - ・ 国立試験研究機関、その他の機関にあっては、同一の機関（民間企業においては、同一の企業）
- 「気候変動に対応した新たな社会の創出に向けた社会システムの改革プログラム」、「健康研究成果の実用化加速のための研究・開発システム関連の隘路解消を支援するプログラム」、「地域再生人材創出拠点の形成」、「科学技術外交の展開に資する国際政策対話の促進」及び「戦略的環境リーダー育成拠点形成」の場合
 - ・ 当該プロジェクトを実施する組織・機関
- 「重要政策課題への機動的対応の推進」の場合
 - ・ 当該プロジェクトを実施する代表組織・機関

(3) POに関する利害関係者の範囲については、作業部会委員に準ずるものとする。

(4) この他、利害関係者に相当するかが明らかでない場合は、作業部会において協議し、判断することとする。

平成24年度中間・事後評価対象プロジェクト一覧

気候変動に対応した新たな社会の創出に向けた社会システムの改革プログラム

中間	森と人が共生するSMART工場モデル実証	気候変動対応社会創出 評価作業部会
	明るい低炭素社会の実現に向けた都市変革プログラム	
	グリーン社会ICTライフインフラ	
	気候変動に伴う極端気象に強い都市創り	

健康研究成果の実用化加速のための研究・開発システム関連の隘路解消を支援するプログラム

中間	多能性幹細胞由来移植細胞の安全性評価研究	健康研究成果実用化加速 評価作業部会
	免疫難病治療のための次世代型抗体医薬開発	
	歯延命化をめざす歯髄再生実用化の隘路解消	
	患者別に機能発現する階層構造インプラント	
	迷走神経刺激による心不全治療の最適化	
	iPS由来再生心筋細胞移植の安全性評価	

地域再生人材創出拠点の形成

事後	宇宙映像利用による科学文化形成ユニット	地域再生人材創出拠点形成 評価作業部会
	環境管理修復・地域資源活用人材養成ユニット	
	ホールマネジメントエンジニア育成ユニット	
	徳島県南のLED関連技術者養成拠点の形成	
	海洋サイバネティクスと長崎県の水産再生	
	元気なら組み込みシステム技術者の養成	
	十勝アグリバイオ産業創出のための人材育成	
	21世紀型ものづくり人材岩手マイスター育成	
	「能登里山マイスター」養成プログラム	
	みなまた環境マイスター養成プログラム	
	ながのブランド郷土食	
石川伝統工芸イノベータ養成ユニット		
中間	企業を牽引する計算科学高度技術者の養成	地域再生人材創出拠点形成 評価作業部会
	災害科学的基礎を持った防災実務者の養成	
	朱鷺の島環境再生リーダー養成ユニット	
	森の国・森林環境管理高度技術者養成拠点	
	せんだいスクール・オブ・デザイン	
	被ばく医療プロフェッショナル育成計画	

科学技術外交の展開に資する国際政策対話の促進

事後	e-アジア国際シンポジウム2011(The e-ASIA International Symposium 2011)	国際政策対話促進 評価作業部会
	STSフォーラム(Science and technology in Society forum)	
	地震・豪雨地帯の斜面災害危険度軽減に資する科学技術推進のための長期戦略企画国際集会	
	宇宙開発利用の持続的発展のための“宇宙状況認識(Space Situational Awareness: SSA)”に関する国際シンポジウム	

戦略的環境リーダー育成拠点形成

中間	東アジア環境ストラテジスト育成プログラム	戦略的環境リーダー育成拠点形成 評価作業部会
	生態系保全と人間の共生・共存社会の高度化設計に関する環境リーダーの育成	
	未来社会創造型環境イノベータ育成	
	地下水環境リーダー育成国際共同教育拠点	
	国際エネルギー・資源戦略を立案する環境リーダー育成拠点	

平成24年度中間・事後評価対象プロジェクト一覧

国際共同研究の推進(先進技術を基盤とした地域共通課題解決型国際共同研究)

事後	鳥インフルエンザ治療薬の国際共同開発研究	国際共同研究推進評価作業部会
	コンクリート構造物のLCM国際標準の確立	
	次世代低環境負荷白色光源の開発	
	東アフリカ稲作振興のための課題解決型研究	
	アジアにおけるヘリコバクター・ピロリ菌の分子疫学研究	
	自然放射線被ばく研究ネットワークの構築	
	熱帯作物分子育種基盤構築による食糧保障	
	アフリカにおける「顧みられない熱帯病(NTD)」対策に資する多重感染症の一括診断法の開発	
	アジア世界文化遺産の高精細デジタル化研究	
	先進Mg合金開発に関する東アジア連携の構築	
タイにおける低炭素排出型エネルギー技術戦略シナリオ研究		

重要政策課題への機動的対応の推進

事後	平成23年霧島山新燃岳噴火に関する緊急調査研究	重要政策課題評価作業部会
	放射性物質の分布状況等に関する調査研究	
	農地土壌等における放射性物質除去技術の開発	

評価項目及び評価の視点

気候変動に対応した新たな社会の創出に向けた社会システムの改革プログラム(中間評価)

評価項目		評価の視点	
総合評価	S. 所期の計画を超えた取組が行われている A. 所期の計画と同等の取組が行われている B. 所期の計画を下回る取組であるが、一部で当初計画と同等又はそれ以上の取組もみられる C. 総じて所期の計画を下回る取組である		
I. 進捗状況	s. 所期の目標を上回っている a. 所期の目標に達している b. 所期の目標をやや下回っている c. 所期の目標を大幅に下回っている	進捗状況(目標達成度)	<input type="checkbox"/> 所期の計画(ミッションステートメントを含む)に沿って順調に進捗しているか <input type="checkbox"/> 採択時のコメントに対し適切に対応しているか <input type="checkbox"/> 客観的な情勢の変化等(社会ニーズの変化等)に対して、所期の計画の適切な見直し等、柔軟に対処できているか
II. 研究プログラムの有効性	s. 高く評価できる a. 妥当である b. やや不適切である c. 不適切である	研究目標	<input type="checkbox"/> 気候変動対策技術の開発及び社会システム改革に関わるプロジェクトの目標は実現されているか <input type="checkbox"/> 年次計画に沿って、研究計画は着実に実行されているか
		要素技術・システム開発	<input type="checkbox"/> 要素技術・システム開発は、その特長(新規性、有効性、実用性など)が気候変動対策として有意義かつ十分に妥当であるか <input type="checkbox"/> 設定した目標を実施期間内に達成できる見通しがあるか
		社会システム改革	<input type="checkbox"/> 開発した技術・システムを社会実装する方法が、具体的かつ明確に示されており、期間内に社会実証を実施できる見通しがあるか <input type="checkbox"/> 制度的隘路等が明確化され、克服策の取組が進捗しているか。またそれを踏まえた社会システム改革の具体像とともに、実現のための道筋が明確になっているか
III. 実施体制等の有効性	s. 高く評価できる a. 妥当である b. やや不適切である c. 不適切である	研究体制(技術開発・社会改革推進チーム)	<input type="checkbox"/> 研究代表者の統括の下、中核機関・参画機関・協力機関との役割分担及び責任体制が明確かつ適切に決められているか <input type="checkbox"/> 実施期間終了後の継続性も考慮し、実現可能な規模の実施体制となっているか
		運営委員会等	<input type="checkbox"/> 定期的(年数回程度)に開催され、実施状況の把握、成果のとりまとめは十分に行われているか
		所要経費の使途	<input type="checkbox"/> 所要経費の規模や用途等は、研究内容とバランスがとれているか
		情報発信	<input type="checkbox"/> ホームページ、ニュースレター、成果発表会等の一般向けの広報は十分であるか <input type="checkbox"/> 関連分野に向けた情報提供・情報交換(論文発表、ワークショップ・シンポジウム開催等)は活発に行われているか
IV. 継続性・発展性の見直し	s. 高いレベルでの継続性・発展性の確保が期待できる a. 継続性・発展性の確保が期待できる b. 継続性・発展性の確保がやや期待できない c. 継続性・発展性の確保が全く期待できない	継続性・発展性	<input type="checkbox"/> 実施期間終了後の到達レベル(成果の社会実装関連)が明確になっているか <input type="checkbox"/> 実施期間終了後において、社会システム改革の定着や継続的な発展が担保され、実施期間終了後の実施体制及び資金計画について検討され、明確になっているか <input type="checkbox"/> プロジェクトの成果(社会システム改革を含む)を今後の政策に反映させる仕組み、手法、体制等が明確であるか <input type="checkbox"/> 対象地域における社会システム改革がモデルとなり、他地域への導入等の波及効果が期待できるか

評価項目及び評価の視点

健康研究成果の実用化加速のための研究開発システム関連の挨拶解消を支援するプログラム(中間評価)

評価項目		評価の視点	
総合評価	S. 所期の計画を超えた取組が行われている A. 所期の計画と同等の取組が行われている B. 所期の計画を下回る取組であるが、一部で当初計画と同等又はそれ以上の取組もみられる C. 総じて所期の計画を下回る取組である		
I. 目標達成度	s. 所期の目標を上回っている a. 所期の目標に達している b. 所期の目標をやや下回っている c. 所期の目標を大幅に下回っている	目標達成度	<input type="radio"/> 所期の計画(ミッションステートメントを含む)に沿って順調に進捗しているか
			<input type="radio"/> 採択時のコメントに対し適切に対応しているか
			<input type="radio"/> 客観的な情勢の変化等(社会ニーズの変化等)に対して、所期の計画の適切な見直し等、柔軟に対処できているか
II. 成果	s. 優れている a. 妥当である b. 妥当とは言えない c. 成果が輩出されていない	研究開発の成果	<input type="radio"/> 国民のニーズが高い革新的な医薬品等の開発に資する成果が得られる見通しがあるか
			<input type="radio"/> 安全性、有効性の評価のための基礎データの集積・蓄積の対象となる研究シーズの開発加速状況はどうか、開発加速に資する見通しはどうか
			<input type="radio"/> 科学・技術上の価値のある知見・成果が得られているか
		情報発信及び波及効果	<input type="radio"/> 論文の発表など、研究成果の量・質および情報発信は十分であるか
			<input type="radio"/> 研究成果はスーパー特区あるいは関連分野への科学的・技術的波及効果が期待できるものか
III. 研究計画・実施体制	s. 優れている a. 妥当である b. 一部が明らかに不適切である c. 総じて不適切である	計画・体制・手法の妥当性	<input type="radio"/> プロジェクト実施のためのマネジメントは適切であるか
			<input type="radio"/> 有効性、安全性評価を専門とするチームあるいは同アドバイザーとの連携体制により、開発期間短縮効果が見込まれるか
			<input type="radio"/> 研究目的・内容にかんがみて、予算の用途は適切であるか
IV. 実施期間終了後における取組の継続性・発展性	s. 高いレベルでの継続性・発展性の確保が期待できる a. 継続性・発展性の確保が期待できる b. 継続性・発展性の確保がやや期待できない c. 継続性・発展性の確保が全く期待できない	継続性・発展性	<input type="radio"/> 実用化に向けた方策・組織・計画等を具体的に提示できているか
			<input type="radio"/> 取り組みを発展させる、実施期間終了後の研究・開発の継続展開の見通しがあるか
			<input type="radio"/> イノベーション創出に向けて、成果が得られる見通しがあるか

評価項目及び評価の視点
地域再生人材創出拠点の形成（事後評価）

評価項目		評価の視点	
総合評価	S. 所期の計画を超えた取組が行われている A. 所期の計画と同等の取組が行われている B. 所期の計画を下回る取組であるが、一部で当初計画と同等又はそれ以上の取組もみられる C. 総じて所期の計画を下回る取組である		
I. 目標達成度	s. 所期の目標を上回っている a. 所期の目標に達している b. 所期の目標をやや下回っている c. 所期の目標を大幅に下回っている	目標に対する達成度	<input type="checkbox"/> 拠点形成は所期の計画に沿って順調に進捗したか
			<input type="checkbox"/> 養成人数は所期の目標を達成したか
			<input type="checkbox"/> 客観的な情勢の変化等(社会ニーズの変化等)があった場合には、所期の計画を適切に見直す等、柔軟に対処できたか
II. 人材養成手法の妥当性	s. 高く評価できる a. 妥当である b. やや不適切である c. 不適切である	地域ニーズの反映等	<input type="checkbox"/> 地域ニーズを反映した人材養成となっていたか、また、継続的な地域ニーズの調査を行い、その結果を適宜人材養成ユニット運営に反映する仕組みとなっていたか
			<input type="checkbox"/> 地域の大学等としての個性・特色を活かしたのになっていたか
		人材養成の手段・方法	<input type="checkbox"/> 養成すべき人材像に対して、被養成者が習得すべき知識・スキル内容及びその到達レベルは明確に定められていたか、また、それらは適切なものとなっていたか
			<input type="checkbox"/> 被養成者の募集・選考方法は適切であったか
			<input type="checkbox"/> 被養成者が習得すべき知識・スキル及びその到達レベルに対応して、カリキュラムは体系的に整備されてきたか
			<input type="checkbox"/> 被養成者が目標とするレベルに到達したかを判定する基準(修了要件)は明確に定められ、被養成者の到達レベルを認定する仕組み(判定委員会等)はあったか、また、認定する仕組みは適切なものとなっていたか
			<input type="checkbox"/> 被養成者や養成従事者へのアンケート、養成修了者やその出身元機関への追跡調査、外部有識者等による評価等を行い、その結果を人材養成ユニットの運営にフィードバックする仕組みはあったか
			<input type="checkbox"/> 資金規模と養成人数・養成内容等のバランスはとれていたか
III. 実施体制・自治体等との連携	s. 高く評価できる a. 妥当である b. やや不適切である c. 不適切である	実施体制	<input type="checkbox"/> 実施機関は、人材養成ユニットの運営に対し、積極的に関与(支援・協力)してきたか
			<input type="checkbox"/> 当該地域を中心とする民間企業等の参画による人的・経済的な協力は効果的に行われてきたか
		自治体等との連携	<input type="checkbox"/> 人材養成ユニットは地域再生計画に位置づけられ、適切に実施されてきたか
			<input type="checkbox"/> 地域の自治体のコミットメントは適切に行われてきたか
IV. 人材養成ユニットの有効性	s. 高く評価できる a. 妥当である b. やや不適切である c. 不適切である	有効性	<input type="checkbox"/> 養成修了者は、当該地域の再生のために活躍しているか、あるいは活躍が期待できるか
			<input type="checkbox"/> 人材養成ユニットは当該地域において評価されているか
			<input type="checkbox"/> 養成した人材に対するネットワークの構築や情報提供等、継続した支援措置が計画あるいは実施されているか
		情報発信・波及効果	<input type="checkbox"/> 当該地域を中心とした広報は十分であったか
			<input type="checkbox"/> 当該地域にとどまらず、他の地域に対しても情報提供・情報交換(育成手法に関する論文発表、シンポジウム開催等)は活発に行われてきたか
			<input type="checkbox"/> 人材養成ユニットは他の地域にとっても有用なモデルとなり、波及効果が期待できるか
V. 継続性・発展性の見通し	s. 高いレベルでの継続性・発展性の確保が期待できる a. 継続性・発展性の確保が期待できる b. 継続性・発展性の確保がやや期待できない c. 継続性・発展性の確保が全く期待できない	期間終了後の継続性・発展性の見通し	<input type="checkbox"/> 実施機関の長によるコミットメントが継続されるとともに、当該機関は人材養成ユニットの成果を活かしながら、責任をもって取組の継続性を確保しているか
			<input type="checkbox"/> 人材養成ユニットは、自立して運営するために必要な経費・人員を確保できているか
			<input type="checkbox"/> 人材養成ユニットの運営は、地域の連携自治体や地元からの支援等を受け、発展性を期待できるものか
VI. 中間評価の反映	s. 高く評価できる a. 妥当である b. やや不適切である c. 不適切である		<input type="checkbox"/> 中間評価で指摘された事項は見直し後の計画において適切に反映されていたか

評価項目及び評価基準
地域再生人材創出拠点の形成（中間評価）

評価項目		評価の視点	
総合評価	S. 所期の計画を超えた取組が行われている A. 所期の計画と同等の取組が行われている B. 所期の計画を下回る取組であるが、一部で当初計画と同等又はそれ以上の取組もみられる C. 総じて所期の計画を下回る取組である		
I. 進捗状況	s. 所期の目標を上回っている a. 所期の目標に達している b. 所期の目標をやや下回っている c. 所期の目標を大幅に下回っている	目標に対する達成度	<input type="checkbox"/> 所期の計画(ミッションステートメントを含む)に沿って順調に進捗しているか
			<input type="checkbox"/> 養成人数は所期の目標を達成したか
			<input type="checkbox"/> 採択時のコメントに対し適切に対応しているか
			<input type="checkbox"/> 客観的な情勢の変化等(社会ニーズの変化等)があった場合には、所期の計画の適切な見直し等、柔軟に対処できているか
II. 人材養成手法の妥当性	s. 高く評価できる a. 妥当である b. やや不適切である c. 不適切である	地域ニーズの反映等	<input type="checkbox"/> 地域ニーズを反映した人材養成となっているか、また、継続的な地域ニーズの調査を行い、その結果を適宜人材養成ユニット運営に反映する仕組みとなっているか
			<input type="checkbox"/> 地域の大学等としての個性・特色を活かしたものになっているか
		人材養成の手段・方法	<input type="checkbox"/> 養成すべき人材像に対して、被養成者が習得すべき知識・スキル内容及びその到達レベルは明確に定められているか、また、それらは適切なものとなっているか
			<input type="checkbox"/> 被養成者の募集・選考方法は適切か
			<input type="checkbox"/> 被養成者が習得すべき知識・スキル及びその到達レベルに対応して、カリキュラムは体系的に整備されているか
			<input type="checkbox"/> 被養成者が目標とするレベルに到達したかを判定する基準(修了要件)は明確に定められ、被養成者の到達レベルを認定する仕組み(判定委員会等)はあるか、また、認定する仕組みは適切なものとなっているか
<input type="checkbox"/> 被養成者や養成従事者へのアンケート、養成修了者やその出身元機関への追跡調査、外部有識者等による評価等を行い、その結果を人材養成ユニットの運営にフィードバックする仕組みはあるか			
<input type="checkbox"/> 資金規模と育成人数・内容等のバランスはとれているか			
III. 実施体制・自治体等との連携	s. 高く評価できる a. 妥当である b. やや不適切である c. 不適切である	実施体制	<input type="checkbox"/> 人材養成ユニットの運営に対する実施機関の関与(支援・協力)は積極的に行われているか
			<input type="checkbox"/> 当該地域を中心とする民間企業等の参画による人的・経済的な協力は効果的に行われているか
		自治体等との連携	<input type="checkbox"/> 人材養成ユニットは地域再生計画に位置づけられ、適切に実施されているか
			<input type="checkbox"/> 地域の自治体のコミットメントは適切に行われているか
IV. 人材養成ユニットの有効性	s. 高く評価できる a. 妥当である b. やや不適切である c. 不適切である	有効性	<input type="checkbox"/> 養成修了者は、(A)当該地域産業の活性化、あるいは、(B)当該地域固有の社会ニーズの解決、のために活躍しているか、あるいは活躍が期待できるか
			<input type="checkbox"/> 人材養成ユニットが当該地域において評価されているか
			<input type="checkbox"/> 養成した人材に対するネットワークの構築や情報提供等、継続した支援措置が計画あるいは実施されているか
		情報発信・波及効果	<input type="checkbox"/> 当該地域を中心とした広報は十分であるか
			<input type="checkbox"/> 当該地域にとどまらず、他の地域に対しても情報提供・情報交換(育成手法に関する論文発表、シンポジウム開催等)は活発に行われているか
			<input type="checkbox"/> 人材養成ユニットは他の地域にとっても有用なモデルとなり、波及効果が期待できるか
V. 継続性・発展性の見通し	s. 高いレベルでの継続性・発展性の確保が期待できる a. 継続性・発展性の確保が期待できる b. 継続性・発展性の確保がやや期待できない c. 継続性・発展性の確保が全く期待できない	実施期間終了までの進め方	<input type="checkbox"/> 4、5年目における計画は、実施期間終了時における成果の目標を達成できるものとなっているか
			<input type="checkbox"/> 実施期間終了時の目標は、実施機関の現状に鑑みて、妥当なものとなっているか
		期間終了後の継続性・発展性の見通し	<input type="checkbox"/> 実施機関の長によるコミットメントが継続され、当該機関が責任をもって事業の継続性を確保する見通しはあるか、その計画は実現可能性があるか
			<input type="checkbox"/> 人材養成ユニットの運営を継続するために必要な経費・人員を確保する見通しはあるか
<input type="checkbox"/> 人材養成ユニットの運営は、連携自治体や地元からの支援等を受け、発展性を期待できるものか			

評価項目及び評価基準
科学技術外交の展開に資する国際政策対話の促進(事後評価)

評価項目		評価の視点	
総合評価	S. 所期の計画を超えた取組が行われている A. 所期の計画と同等の取組が行われている B. 所期の計画を下回る取組であるが、一部で当初計画と同等又はそれ以上の取組もみられる C. 総じて所期の計画を下回る取組である		
I. 目標達成度	s. 所期の目標を上回っている a. 所期の目標に達している b. 所期の目標をやや下回っている c. 所期の目標を大幅に下回っている	目標達成度	<input type="checkbox"/> 所期の計画(ミッションステートメントを含む)に沿って順調に進捗しているか <input type="checkbox"/> 採択時のコメントに対し適切に対応できたか <input type="checkbox"/> 客観的な情勢の変化等(社会ニーズの変化等)に対して、所期の計画の適切な見直し等、柔軟に対処できているか
II. 成果	s. 優れている a. 妥当である b. 妥当とは言えない c. 成果が輩出されていない	国際交流の成果	<input type="checkbox"/> 将来に向けての科学・技術の在り方を議論する国際的なコミュニケーションの場につながったか <input type="checkbox"/> 民間団体主導による科学・技術外交の戦略的展開につながる活動であったか
		波及効果	<input type="checkbox"/> 海外から招へいされた科学技術関係者、政府関係者、大学等研究機関関係者、民間企業等要人が、国際集会以外においても、我が国に波及効果をもたらしたか(我が国要人との会談、他の国際集会への出席等) <input type="checkbox"/> 我が国のプレゼンス向上につながったか
III. 計画・手法の妥当性	s. 優れている a. 妥当である b. 一部が明らかに不適切である c. 総じて不適切である	計画・手法の妥当性	<input type="checkbox"/> 目的・内容にかんがみて、予算の使途は適切であったか <input type="checkbox"/> 国際的なコミュニケーションの場を有効にする工夫等は適切に行われたか
IV. 実施期間終了後における取組の継続性・発展性	s. 高いレベルでの継続性・発展性の確保が期待できる a. 継続性・発展性の確保が期待できる b. 継続性・発展性の確保がやや期待できない c. 継続性・発展性の確保が全く期待できない	継続性・発展性	<input type="checkbox"/> 実施期間終了後も、科学・技術の在り方を議論する国際的なコミュニケーションの場の定着に向けた国際交流を継続するための工夫があるか <input type="checkbox"/> これまでの取組を発展させる、実施期間終了後の明確な国際交流についての継続ビジョンがあるか

評価項目及び評価基準
戦略的環境リーダー育成拠点形成（中間評価）

評価項目		評価の視点	
総合評価	S. 所期の計画を超えた取組が行われている A. 所期の計画と同等の取組が行われている B. 所期の計画を下回る取組であるが、一部で当初計画と同等又はそれ以上の取組もみられる C. 総じて所期の計画を下回る取組である		
I. 進捗状況	s. 所期の目標を上回っている a. 所期の目標に達している b. 所期の目標をやや下回っている c. 所期の目標を大幅に下回っている	目標に対する達成度	<input type="checkbox"/> 所期の計画(ミッションステートメントを含む)に沿って順調に進捗しているか <input type="checkbox"/> 養成人数は所期の目標を達成したか <input type="checkbox"/> 採択時のコメントに対し適切に対応しているか <input type="checkbox"/> 客観的な情勢の変化等(社会ニーズの変化等)に対して、所期の計画の適切な見直し等、柔軟に対処できているか
II. 育成システム(実施体制等)の有効性	s. 高く評価できる a. 妥当である b. やや不適切である c. 不適切である	実施体制	<input type="checkbox"/> 全学的な協力・支援体制が構築され、国際的に活躍できる環境リーダーの育成に有効なシステムとなっているか <input type="checkbox"/> 民間企業等の参画による人的・経済的な協力は効果的に行われているか <input type="checkbox"/> 海外拠点等とのネットワークが構築され、効率的に運用されているか <input type="checkbox"/> 育成対象者や育成従事者へのアンケート、外部有識者等による評価等を行い、その結果が当該拠点の運営に反映されているか
		留学生受入措置の内容	<input type="checkbox"/> 国の支援施策の活用や独自経費の措置等、留学生を支援する十分な財源が確保されているか、また、受入措置の内容は適切か
		所要経費の使途	<input type="checkbox"/> 所要経費の規模や用途等は、人材育成の内容とバランスがとれているか
		情報発信	<input type="checkbox"/> ホームページ、ニュースレター等の一般向けの広報は十分であるか <input type="checkbox"/> 関連分野に向けた情報提供・情報交換(論文発表、ワークショップ・シンポジウム開催等)は活発に行われているか
III. 育成プログラムの有効性	s. 高く評価できる a. 妥当である b. やや不適切である c. 不適切である	育成対象者の募集・選定	<input type="checkbox"/> 育成対象者の選定が、公平かつ透明性の高い方法で行われ、結果として環境リーダーとなりうる者が選ばれているか <input type="checkbox"/> 途上国ニーズを把握し、環境リーダーとなりうる途上国からの留学生が確保されているか
		カリキュラム等	<input type="checkbox"/> 環境に係わる自然科学分野と人文・社会科学分野をバランスよく、体系的にカリキュラムは構成されているか <input type="checkbox"/> 途上国のニーズを踏まえ、またその解決につながるカリキュラムとなっているか <input type="checkbox"/> 留学生と我が国の学生が共に学ぶことによる効果が十分発揮されているか <input type="checkbox"/> 講義は英語で行われているか <input type="checkbox"/> インターンシップや研究開発への参画等、産業界と協力した実践的な育成カリキュラムとなっているか <input type="checkbox"/> 育成対象者が目標とするレベルに到達したかを判定する基準(修了要件)は明確に定められ、それを認定する仕組み(判定委員会等)はあるか、また、それらは適切なものとなっているか
IV. 継続性・発展性の見通し	s. 高いレベルでの継続性・発展性の確保が期待できる a. 継続性・発展性の確保が期待できる b. 継続性・発展性の確保がやや期待できない c. 継続性・発展性の確保が全く期待できない	実施計画等	<input type="checkbox"/> 構築したシステムを自立的に維持、運営、発展させるための方策が明確に示されており、継続性が担保されているか <input type="checkbox"/> 実施期間終了後の継続性も考慮し、実現可能な規模の実施体制となっているか <input type="checkbox"/> 機関の長のコミットメント及び終了後に自立して運営することを想定した資金計画があるか
		育成された環境リーダーの活躍と継続的な支援	<input type="checkbox"/> 育成された環境リーダーが環境問題の解決に向けて十分な活躍が期待できるか <input type="checkbox"/> 育成された環境リーダーに対するネットワークの構築や情報提供等、継続した支援措置が計画され、実現可能と考えられるか

評価項目及び評価基準

国際共同研究の推進（先進技術を基盤とした地域共通課題解決型国際共同研究）（事後評価）

評価項目		評価の視点	
総合評価	S. 所期の計画を超えた取組が行われている A. 所期の計画と同等の取組が行われている B. 所期の計画を下回る取組であるが、一部で当初計画と同等又はそれ以上の取組もみられる C. 総じて所期の計画を下回る取組である		
I. 目標達成度	s. 所期の目標を上回っている a. 所期の目標に達している b. 所期の目標をやや下回っている c. 所期の目標を大幅に下回っている	目標達成度	<input type="checkbox"/> 課題実施計画（ミッションステートメントを含む）の達成度はどの程度か（所期の計画/条件付採択の場合は採択コメントを反映した計画を基準とする） <input type="checkbox"/> 採択時のコメントに対し適切に対応できたか <input type="checkbox"/> 客観的な情勢の変化があった場合には、所期の計画の適切な見直しなど機動的に対応できたか
II. 成果	s. 優れている a. 妥当である b. 妥当とは言えない c. 成果が輩出されていない	科学的・技術的価値 社会的価値（科学技術コミュニティの形成、共同研究体制）	<input type="checkbox"/> 先進的技術の改良・普及、国際標準の創出などにつながる成果が得られたか <input type="checkbox"/> 共同研究によって得られた新しい科学技術面での知見があるか <input type="checkbox"/> 原著論文の発表など、研究成果の量・質および情報発信は十分であるか <input type="checkbox"/> 研究成果は関連分野への科学的・技術的波及効果が期待できるものか <input type="checkbox"/> イコールパートナーシップに基づき、海外参画機関と十分連携の取れた共同研究がなされたか <input type="checkbox"/> 必要に応じて、プロジェクト管理のための会議や、研究成果発表のための国際研究会議等国内外の研究者が直接対話する機会を設けるなど海外参画機関と適切なコミュニケーションが図られたか <input type="checkbox"/> 形成された科学技術コミュニティは、科学技術外交推進等への政策的波及効果が期待できるものか <input type="checkbox"/> 今後の社会経済の活性化への貢献が期待できるか
III. 計画・手法の妥当性	s. 優れている a. 妥当である b. 一部が明らかに不適切である c. 総じて不適切である	計画・手法の妥当性	<input type="checkbox"/> 研究目的・内容にかんがみて、予算の用途は適切であったか <input type="checkbox"/> 課題実施のためのプロジェクトマネジメントは適切であったか
IV. 実施期間終了後における取組の継続性・発展性	s. 高いレベルでの継続性・発展性の確保が期待できる a. 継続性・発展性の確保が期待できる b. 継続性・発展性の確保がやや期待できない c. 継続性・発展性の確保が全く期待できない	継続性・発展性	<input type="checkbox"/> 実施期間終了後も研究・交流を継続するための体制の工夫があるか <input type="checkbox"/> これまでの取組を発展させる実施期間終了後の明確な研究・交流ビジョンがあるか

評価項目及び評価基準

重要政策課題への機動的対応の推進(事後評価)

評価項目		評価の視点	
総合評価	S. 所期の計画を超えた取組が行われている A. 所期の計画と同等の取組が行われている B. 所期の計画を下回る取組であるが、一部で当初計画と同等又はそれ以上の取組もみられる C. 総じて所期の計画を下回る取組である		
I. 目標達成度	s. 所期の計画以上に進捗している a. 所期の計画通りに進捗している b. 所期の計画よりやや遅れている c. 所期の計画より大幅に遅れている	目標達成度	○ 研究全体の目標達成度はどの程度か(研究開始時の計画を見直した場合は、期待される目標に対する達成度はどの程度か)
			○ 個別研究項目(サブテーマ)ごとの目標達成度はどの程度か
II. 研究成果	s. 所期の計画以上の成果が得られている a. 所期の計画と同等の成果が得られている b. 所期の計画以下の成果だが、一部では計画と同等又はそれ以上の成果が得られている c. 所期の成果が得られていない	科学的・技術的価値	○ 研究成果の価値は今後の対応に貢献し、継続性が期待できるものであるか
		科学的・技術的波及効果	○ 成果は当該分野および関連分野への科学的・技術的波及効果が期待できるものか ○ 当初予定していなかった成果(派生技術等)はあるか
		社会的・経済的波及効果	○ 今後の社会経済へ貢献が期待できる成果が得られたか
III. 研究計画・実施体制	s. 所期の計画以上の成果が得られている a. 所期の計画と同等の成果が得られている b. 所期の計画以下の成果だが、一部では計画と同等又はそれ以上の成果が得られている c. 所期の成果が得られていない	研究計画の妥当性	○ 緊急的な課題に対して柔軟で機動的な計画となっていたか
		実施体制の妥当性	○ 研究実施者間・研究項目間の調整及び研究の進捗・管理において、代表者の指導性が発揮されたか
			○ 実施機関・研究者間の連携が適切にとれていたか、課題全体として統合性はとれていたか ○ サブテーマの実施内容と整合性がとれているか(研究全体に対するサブテーマの位置付けが適切なものであるか)

評価作業部会委員の選定基準について

0. 共通基準

- (1) 審査や中間評価を行った委員を可能な限り多数加えること
- (2) 評価対象プロジェクトの研究代表者・参画者でないこと
- (3) 多様性を考慮した委員構成とすること（その際、性別、年齢、所属する大学等の適切なバランスに配慮する）
- (4) 大学等の教育機関に属する者においては、原則として博士の学位を有する教授または准教授クラスであること
- (5) 研究機関および民間企業に属する者においては、プロジェクトリーダー等のマネージャークラスの者、あるいは、上記（4）の者と同等以上の能力を有する者であること

1. 科学技術システム改革関連作業部会委員（作業部会（1）、（2）、（3）、（5））

- (1) 科学技術システム改革、組織マネジメント等に関する豊富な経験・知見を有すること
- (2) 評価対象分野を含む幅広い知見を有すること
- (3) 別紙に示す諸分野・要件をカバーできる構成とすること

2. 科学技術外交関連作業部会委員（作業部会（4））

- (1) 国際活動、科学技術に関する豊富な経験・知見を有すること
- (2) 別紙に示す諸分野・要件をカバーできる構成とすること

3. 研究開発関連作業部会委員（作業部会（6）及び（7））

- (1) 評価対象プロジェクトを包含する研究分野の研究者
 - ① 関連分野の研究実績（論文、受賞等）が優れていること
 - ② 学会等での活動実績が優れていること
- (2) 評価対象プロジェクトを包含する事業分野の技術（研究）者
 - ① 当該プロジェクトに関連し、産業界において技術（研究）開発の経験が十分あること
 - ② 当該プロジェクトに関連した事業について、十分な実務経験があること
- (3) 別紙に示す諸分野・要件をカバーできる構成とすること

4. メールレビューアー

上記の他、評価プロジェクトの内容に応じて、当該分野の専門家によるメールレビューを実施する。

【各作業部会の評価に必要とする諸分野・要件】

(1) 気候変動対応社会創出評価作業部会

- ・ 気候変動分野に係る専門的知見を有すること
- ・ 環境・エネルギー分野に関する社会システム、地域振興等に係る専門的知見を有すること

(2) 健康研究成果実用化加速評価作業部会

- ・ 医薬品・医療機器の開発研究に係る専門的知見を有すること
- ・ 最新の医療技術（再生医療等）の研究に係る専門的知見を有すること
- ・ 薬事審査又は安全性・有効性評価に係る専門的知見を有すること

(3) 地域再生人材創出拠点形成評価作業部会

地域振興、地方政策、企業経営、環境、防災、医療、農林水産、工学分野の分野に係る専門的知見を有すること

(4) 国際政策対話促進評価作業部会

- ・ 国際交流に係る専門的知見を有すること
- ・ 国際共同研究に係る専門領域（環境、ライフサイエンス、国際標準等）に係る専門的知見を有すること
- ・ 科学技術外交に係る専門的知見を有すること

(5) 戦略的環境リーダ一育成拠点形成評価作業部会

- ・ 科学技術政策、環境科学、環境工学、医療、自然科学一般の分野に係る専門的知見を有すること
- ・ 大学を含む学術・研究機関又は民間企業等において、人材育成、人材開発又は組織改革に携わった経験があること

(6) 国際共同研究推進評価作業部会

- ・ 科学技術一般、科学技術政策、化学、生物学、環境、防災、医療、感染症、情報通信、材料工学、システムエンジニアリング、国際政治、国際経済、国際法の分野に係る専門的知見を有すること

(7) 重要政策課題評価作業部会

- ・ 環境、防災、原子力、土壌、噴火、情報通信、自然科学一般の分野に係る専門的知見を有すること